



弥生の出雲王に出会える

季刊

第46号

(2022年7月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★夏季企画展

「祈りが込められた副葬品」

7月23日(土)～10月17日(月)

昨年の冬季企画展では、「弥生墳丘墓に供えられた食器」と題して、墓上から出土した土器を展示しました。今回は、土器以外の弥生時代後期から古墳時代後期にかけての副葬品を取り上げます。副葬品は、時代や被葬者の権力の違いにより材質や量・種類が変化します。これらの出土の様子を紹介し、当時の人たちの祈りに迫ります。

1 弥生時代の副葬品

前期から中期にかけて、石製の玉類や石鏃などが棺の中から出土します。後期になると、ガラスや金属など大陸由来の新たな素材の副葬品が導入されました。江津市波来浜B区1・2号墓で銅鏃や鉄鏃、出雲市西谷3号墓では、石やガラスの玉類、鉄剣などが副葬されています。副葬品は、遺体のそばの棺内に置かれたものだけではなく、邑南町順庵原1号墓では、棺の蓋をした後、棺外にガラス玉を撒いています。棺外から出土する玉類は、遺体に装着された装身具ではなく、呪具として配置されたものでしょう。

2 古墳時代の副葬品

前期には玉類や武器に加え、青銅鏡や鉄製武器(短甲)、鉄製農具(刀子・ヤリガンナ・鉄斧・鎌)などが加わります。雲南市斐伊中山1号墳からは細文式鳥文鏡、松江市釜代1号墳からは内行花文鏡が出土しています。邑南町中山B1号墳からは、県内では数少ない鎧(短甲)が出土しました。この短甲は、石棺外の狭い副室から出土しており、遺体に装着されています。玉類と同じく呪具として機能したのでしょうか。

中期の松江市金崎1号墳では、石室内から須恵器(高杯やハソウなど)が出土します。古墳時代前期までは墓上に飲食物を供えていましたが、より遺体のそばに飲食物を供え、死者の鎮魂を祈ったと推測します。

後期には出雲市上塩冶築山古墳や国富中村古墳のように、金銀で飾られた大刀や馬具などが目立ちます。雲南市平ヶヶ廻横穴墓の刀子は、全体が金で飾られています。

3 よみがえるな!

国富中村古墳の馬具は、バラバラに壊され、石室内に撒かれました。さらに石棺の蓋も壊され

ていました。壊すことで、それらの機能を停止させ、死者の再生阻止を祈ったと推察しています。

弥生から古墳時代にかけて、故意に曲げられた鉄製の剣や刀、鉄鏃、ヤリガンナが棺の内外で出土します。これらは「折り曲げ鉄器」と呼ばれ、出雲市西谷16号墳や松江市奥才古墳群などに例があります。副葬時に折り曲げること、本来の機能を停止させ、呪具としての意味を強めたものです。

この他、遺体を安置する前や、埋葬後の墳丘上からも副葬品が出土します。これらの存在により、墓では繰り返し呪具を使った儀礼が執行されたことがわかります。

副葬品は、呪具としての機能も持っています。そこに込められた祈りは、「よみがえるな!」であったのでしょ。

(坂本豊治)



奥才古墳群の「折り曲げ鉄器」
(鹿島歴史民俗資料館蔵)

★ギャラリー展

「いつまでも戦後でありたい」をテーマに
旧大社基地の調査速報

7月6日(水)～10月31日(月)

アジア・太平洋戦争が終結してから今年で77年目を迎えます。出雲市内にはこの大戦中に使用された軍事関連の施設跡や物品、当時の社会情勢を物語る痕跡や資料などが、今でも数多く残っています。中でも斐川町にある旧海軍大社基地は、島根県内で屈指の規模の軍事施設跡です。

1945(昭和20)年、当時の海軍は、戦況悪化による本土決戦に備え、アメリカ軍に破壊された主要な航空基地に替わる飛行場として、大社基地を建設しました。建設作業は3月から6月にわたる3か月余りで行われ、多い日には、地元住民や学童も含む6000人以上の人が携わりました。

こうしてコンクリート敷きの主滑走路(1500m×60m)のほか、爆撃機「銀河」を隠すための掩体、掩体と滑走路をつなぐ誘導路、魚雷や爆弾を格納する物資保管壕などが造られました。

これらの施設は戦後の開発によって姿を消したものもあります

が、現存しているものやその痕跡を残すものも少なくありません。

出雲市は昨年12月、この旧大社基地の中心施設であった主滑走路跡の記録を取る調査を行いました。旧大社基地の調査や研究は、これまで郷土史家などによって史料や証言を基に進められてきましたが、このたびの調査は、施設跡を対象にした初めての広範囲に及ぶ実地調査です。

この調査の主な内容と成果は、次のとおりです。

主な調査内容

- ・ 現地測量
- ・ 空中撮影による三次元測量
- ・ 断面構造確認のための掘削

主な調査成果

- ① 滑走路の西端から東へ600mの間では、西端が東より1m余り高い。
- ② 滑走路は中心軸が高く両側が20cm前後低い。
- ③ 滑走路のコンクリート厚は10cm程度で鉄筋はない。その下には5cmほどの赤土が敷かれ、さらに下は川砂が堆積している。

①については、自然地形を反映したものか、意図的なものかを今

後検討する必要があります。②については、滑走路中央に水が溜まらないための構造と考えられます。③については、これまで「鉄筋コンクリートであった」「コンクリートの下に碎石が敷かれた」などの証言がありました。このたび実際の状態が明らかになりました。

これらの調査のほか、今後の平和学習などに活かすため、ドローン撮影や360度パノラマ撮影なども行いました。今回の展示では、調査の成果を紹介するほか、撮影画像もパネル展示いたします。

(三原一将)



南西から見た旧大社基地の主滑走路跡
(2021年12月撮影)

★ショップに新商品が

登場しました!

出雲弥生の森博物館ショップでは、4月から新商品を販売しています。その中で当館館長のおすすめが「古墳ハンカチ」です。また、ハニワや古墳の形をしたクリップ、古墳スイーツシルなどといったかわいい商品もあります。

書籍では、『研究紀要第10集』、『古墳時代 ガイドブック』などを新しく並べています。

また、出雲市内外の神楽団体に番内面や神楽面を提供されている杉谷工房様の商品の取扱いは始めました。

ご来館の際はぜひお買い求めください!



番内面(鬼人面)

★速報展

「源代遺跡の発掘調査」
「『風土記』に記された川の跡」

好評開催中！9月26日(月)

源代遺跡は出雲市国富町と西郷町にまたがる遺跡です。今回の速報展では平田4地区統合小学校建設予定地で2020(令和2)年に実施した発掘調査の成果をご紹介します。

今回の発掘調査地点(源代遺跡第2地点)では、河川の跡から弥生時代〜平安時代の遺物が多く出土しました。奈良時代に編纂された『出雲国風土記』(733年編纂)によると、調査地点付近は当時の行政区画である榑縫郡沼田郷と出雲郡美談郷の境界付近にあたります。その境界には「宇加川」と呼ばれた川が流れていたとされ、調査で発見した河川跡はこの宇加川であると考えて良いでしょう。

また、遺物の中で特に注目されるのが古代の墨書土器です。出土した土器の表面をよく観察すると、墨書きされた文字の存在が確認できます。写真右側の土器には「本」の文字が記されています。当時は「奉」の略字として使用されたようです。宗教的な儀礼に用

いられたものでしょう。写真左側の土器の文字は消えかかっていますが、榑縫郡の「榑」の異体字と考えられます。古代の役所で使用されたものでしょうか。

『出雲国風土記』の記載にリンクした貴重な発掘調査成果です。この機会にぜひ一度ご覧ください。(須賀照隆)



土器に墨書きされた文字(左:「榑」 右:「本」)

★古文書の森をゆく⑪
「子どもたちの学び」

近代教育による学校ができる前、江戸時代は藩校・私塾・寺子屋の3つが学びの拠点でした。そのなかでも多くの庶民が通った場所が、「読み・書き・算盤」を教えた寺子屋です。

江戸時代後期から1871(明治4)年にかけて、出雲市内には160軒の寺子屋がありました(『日本教育史資料』)。運営主は、農民や町人、神官、僧侶、医者などです。このことから職業柄、古典籍の知識を持つ人や字を書く仕事に就く人が、地域の子どもたちのために学びの場を設けたとみられます。男女共学の寺子屋も、平田・大津・今市などの町部にありました。



村名を練習した習字の手本(出雲市所蔵)

「いろは」の音に当てはまる漢字を学べる手本(出雲市所蔵)



読み書きのテキストには、いろは手本や千字文、実語教、往来物などがあり、かな文字から漢字へ、単語から文章へとレベルを上げて学べるよう工夫されていました。

このほかに「草双紙」という絵本も学びの書物でした。「桃太郎」や「さるかに合戦」など今も有名な物語が絵本として流布しており、子どもたちは寺子屋で字を覚え、絵本を通して物語を読む楽しさを知っていたのです。

(春日 瞳)

★展示のご案内

▼夏季企画展

7月23日(土)～10月17日(月)

「祈りが込められた副葬品」

●ギャラリートーク

7月23日(土)・8月7日(日)・

9月4日(日)・10月1日(土)

※いずれも10時から



釜代1号墳の内行花文鏡 (4世紀) 松江市蔵

▼ギャラリートーク

7月6日(水)～10月31日(月)

「これまで戦後でありたい」ROUND

旧大社墓地の調査速報

●ギャラリートーク

7月17日(日)・8月28日(日)・

9月18日(日)・10月16日(日)

※いずれも10時から

▼速報展

好評開催中～9月26日(月)

「源代遺跡の発掘調査

―風土記に記された川の跡―

★講座・講演会のご案内

▼夏季企画展関連講演会

9月11日(日) 14時～16時

「古墳と神傳思想」

●講師 加藤一郎氏

(宮内庁書陵部)

●受講料 無料

▼ギャラリートーク関連講演会

8月7日(日) 14時～16時

「出雲に残る戦争の爪痕

～旧大社墓地を中心に～

●講師 三原一将(当館)

●受講料 無料

最新情報は博物館ホームページをご確認ください。



講座の申込について

定員50名 当日受付なし

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9～17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

※講座当日は、マスク着用、手指消毒、体温測定にご協力ください。

★館長古來夢

今年には沖縄本土復帰から50年。

復帰の日は5月15日だった。通貨はドルから円へ転換され、6年後には車両が左側通行へと移行した。その1972年を遡ること40年、昭和7年のこの日、首相公邸に押し入った帝国海軍将官が総理大臣を射殺する大事件が勃発した。「五・二五事件」だ。撃たれたのは第29代首相・犬養毅(1855～1932)。「木堂」と号した。

明治10(1877)年、まだ慶應義塾の学生だった犬養は、九州熊本にいた。3月に開戦した西南戦争を取材する郵便報知新聞の「戦争探偵人」(記者)として田原坂や吉次峠の戦いを「戦地直報」として報道し話題を呼んだ。

1890年、彼は出身地の岡山から立候補し代議士となった。日本と中国との関係にも深い関心を抱いていた犬養は、中国革命の父・孫文が亡命した時には宮崎滔天の福岡荒尾の実家にかくまうよう手配したりもしている。

能筆だった犬養の書は岡山各地に残る。県北の高梁市頼久寺の国指定名勝庭園を望む一室にも「木堂」の書が掛っていた。

犬養の生家はいまも犬養木堂記念館として岡山市北区川入に残っていて、彼の肉声を聞くこともできる。ちなみに、元国連高等弁務官の緒方貞子や女優の安藤サクラは、犬養毅のひ孫にあたる。

木堂記念館の駐車場に立つと時折、鋭い新幹線の走行音が耳に飛び込んでくる。目の前を走る高架線路の建設にあたって発掘されたのが川入上東遺跡。上東式土器という吉備地方の弥生土器(後期)の標識遺跡だ。同時期の山陰の土器とともに器壁がきわめて薄い高性能煮炊き具だった。初めて近畿の後期弥生土器を見た時、なんと野暮ったい分厚さよ、とあきれたことを思い出した。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2022年7月

〒693-0011 島根県出雲市大津町2760 (TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617 (E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料/無料
- 開館時間/9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

